

様式 1

令和4年度学長戦略経費（研究プロジェクト）実績報告書（研究実績）

1 研究課題名

外国語（英語）教育におけるデジタル教科書の教育効果の検証
—紙の教科書やデジタル副教材及び国語科・算数科等の活用状況との比較検討を通して—

2 研究代表者

北海道教育大学函館校地域教育専攻，教職大学院 教授
附属函館小学校長 橋本忠和（美術・教材開発）

3 研究分担者・研究協力者

（研究分担者）

- ・内藤一志教授（国語）・石井洋准教授（算数）
- ・石森広美准教授（英語）・杉本任士教職大学院准教授（教育効果分析）
- ・山口好和准教授（ITC教育）・奥平理准教授（社会）
- ・中村吉秀教職大学院教授・附属中学校長（美術・附属中学校等推進・分析）
- ・鈴木淳学校臨床教授（算数）・赤間幸人学校臨床教授（社会・高校実践分析）

（研究協力者）

- ・新田英樹附属函館小学校副校長・黒田諭附属函館中学校副校長
- ・安彦有里恵附属函館小学校教諭・市川洋二附属函館小学校教諭
- ・鈴木悠太附属函館小学校教諭（教職大学院函館校院生）
- ・佐藤秋杜附属函館小学校教諭・福留志織附属函館中学校教諭（他英語科担当教諭）・長友深雪北海道大野農業高等学校教諭（教職大学院函館校院生）

4 令和4年度研究計画の達成度

- a 計画とおり達成した
- b 概ね達成した
- c あまり達成できなかった
- d 全く達成できなかった

【c 又は d を選択した場合の理由や問題点】 b ですが課題点あるので記します

今年度予定のデジタル教科書活用の事例分析・研究の開始やデジタル教科書のコミュニケーション・タスクの内容分析・研究（長友の実践論文に掲載、学会論文に発表予定）、google for school を活用した小・中・高等学校でのデジタル教科書を活用した授業実践事例の開発（3 回実施）、データベース化（附属小学校の HP で公開予定）の開始は概ね実施できた。

ただ、プロジェクトが学長裁量に採用されたのが 10 月 13 日であり、予算の配布が実際に行われたのが 11 月だった。そのため、初年度から 2 年度にかけて実施予定のデジタル教科書に関わるアンケートや 11 月と 2 月の附属校研究会・セミナーの講師依頼等の手配、現地調査等は、報告書作成までの実質 2 ヶ月あまりで、行う事は難しかった。したがって予算配分通知後は、デジタル教科書指導書の購入、デジタル教科書用いる際の掲示及び遠隔双方向授業実践や研究会で使用するモニター類やデータ保存の機器等、デジタル教科書研究を行うための附属校や担当教員の研究環境整備に本年度は努めた。故に採用後の予算配分額・施行手続き等の情報共有等は担当事務間でしっかり行い、速やかに予算配分連絡・執行ができるようにしてほしい。

上記に記したが、高校英語教科書の内容分析や英語の教科書用いた高校と附属小学校との異校種共同研究や、デジタル教科書を有効活用する為の事例報告や ITC 教育ソフト活用講習（附属中学校教諭講師）、さらに英語教諭がデジタル教科書・機器をもちいた授業作りや評価法（CBT）の実践発表を各校研究大会で、購入した機器等を用いて報告・発信している。加えて、研究分担者も学会等で関連研究成果を報告するなど、本研究テーマ具現化に向けてできる限りの取り組みを行った。

5 学術的成果

【論文投稿】

- ・長友深雪，橋本忠和，鈴木淳，2023，「高校生英語力を生かすコミュニケーション・タスクの開発－異校種との交流活動の分析等を通して－：学校教育学会誌 第 26 巻」，函館 学校教育学会（2023 年 9 月発行）

【書籍出版】

- ・橋本忠和，2023，「ロボット教材の選択は慎重に：いまどきの便利ツール」『教育美術 2023 年 4 月号』，美術教育振興会（2023 年 4 月発行予定）

【学会発表】

- ・石森広美，2022，「小学校外国語に対する学生のイメージに関する一考察：第 22 回小学校英語教育学会（JES）」，小学校英語教育学会（オンライン：7 月 13 日）
- ・石井洋，2022，「算数の個別学習・協働学習における教師の役割に関する研究－ICT を活用した授業実践における教師のコーチングとファシリテーションに着目して－：全国数学教育学会第 57 回研究発表会」，全国数学教育学会，（12 月 11 日早稲田大学）
- ・橋本忠和，2023，「プログラミング教育の幼小接続を円滑にする表現領域の

アプローチカリキュラムの開発, 54 回美術科教育学会兵庫大会, 美術科教育学会 (3 月 27 日オンライン開催)

【その他】

- ・石森広美, 2022 年 10 月 4 日 宮城県大和町立小野小学校 第 5 学年 外国語 (英語) 教育講師
- ・石森広美, 2022 年 12 月 12 日 宮城県石巻市立女川小学校 第 5 学年 外国語教育 (英語) 講師
- ・石森広美, 2023 年 3 月 9 日 宮城県東松島市立矢本西小学校の外国語 (英語) 教育を (調査予定) 授業見学と指導教員へのインタビュー

6 実践的成果

【教材】

次年度以降作成予定

【評価方法】

- ・北海道教育大学附属函館中学校 福留志織, 匂坂卓雄, 2022, 「外国語科, 学習方略の育成を目指した指導と評価の一体化～CBT の活用を通して生徒のメタ認知能力の育成を目指す～」, 北海道教育大学附属函館中学校 (令和 4 年 1 月 4 日の研究大会「1 人 1 台端末環境における指導と評価の一体化の実現 ～CBT を活用した学習評価の在り方～」で公開, 次のアドレスでアクセス可能, https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00002800/00002868/R4_eigo_bulletin.pdf)

【指導 (授業) 案】

- ・福留志織, 匂坂卓雄, 2022, 「英語科, 研究大会指導案 (外国語科) 令和 4 年 1 月 13 日 (木) 6 時間目 (次のアドレスでアクセス可能, [R4_eigo_guidance.pdf \(hokkyodai.ac.jp\)](https://www.hokkyodai.ac.jp/files/00002800/00002868/R4_eigo_guidance.pdf)) 150 名参加
- ・安彦有里恵, 2022, 「Unit6 What would you like? 5 年生外国語」北海道教育大学附属函館小学校 (令和 4 年 11 月 25 日秋季教育研究大会「新たな価値を創造する力の育成を目指して」指導案等は次のアドレスで令和 5 年 4 月以降閲覧可能 83 名参加, https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_hak_syo/study/guidance.html)

【教育方法】

- ・長友深雪, 2023, 「高校生の英語力を生かすコミュニケーション・タスクの開発—異校種との交流活動の分析等を通して—: 令和 4 年度 実践論文 (教職キャリア形成・研修デザインコース)」教職大学院函館校 (2 月 11 日口頭で成果発表, 令和 5 年 4 月以降函館・札幌の教職大学院にて申請により閲覧可能)
- ・令和 5 年 2 月 10 日令和 4 年度北海道教育大学附属函館学校園 「授業力向上研究セミナー」・提言: 小学校: 鎌田 尚吾「小学校における『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実に向けて」・中学校: 橋本 風「ひとりひとりの学習を成り立たせる書写指導の工夫 ~ICT を活用した毛筆指導~」・中学校金子智和「ICT 活用演習 (Google workspace for Education) 中級編」56 名参加

【その他】

- ・石森広美, 「初等外国語」受講者 45 名 (函館校地域教育専攻 2 年生) に対して, 英語デジタル教科書についての意見をレポートで収集 (データ分析中)

7 その他、研究実施状況

- 異校種英語交流事例 1・・大野農業高校 1 年生と附属函館小学校 5 年生 (クラウドの活動) 「ICT を活用して話す相手を意識した交流: 自己紹介」, 令和 4 年 7 月 13 日 (水) 11:00~11:50
- 事例 2 (対面の活動: 北海道大野農業高等学校) 「英語で『お店ごっこ』 (高校生が栽培・生産加工した商品の販売) と, 大野農業高校『クイズ』」 令和 4 年 10 月 12 日 (水) 10:00~11:20
- 事例 3 (クラウドの活動) 「英語で函館おすすめメニューの紹介とオーダー体験」 令和 4 年 11 月 16 日 (水) 11:00~11:50 「英語で小学生が農業高校の食材を生かしたメニュー紹介と交流」